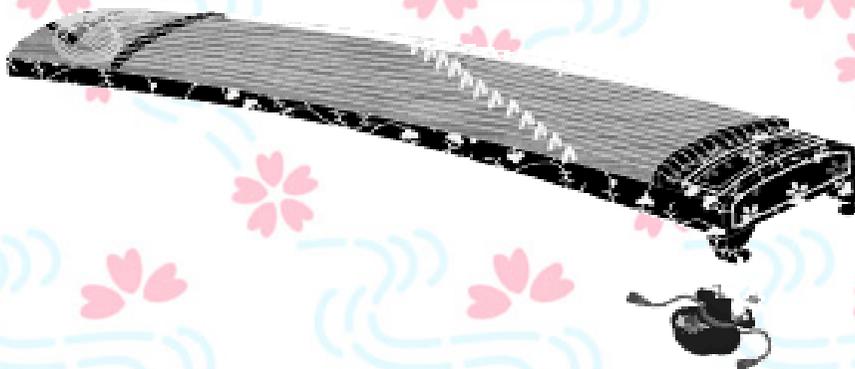


日本音楽部門 第35回発表会(県大会)

～ 箏 曲 ・ 能 楽 ～

曲目・演目紹介



(1) はなになる (作曲 杉浦充) 藤ノ花女子高等学校

曲名の「はな」には三つの意味が込められています。凛とした姿勢で箏に向かう美しい様…「花」。自身を磨くことで醸し出される内面的な美しさ…「華」。ナンバーワンではなくオンリーワン (オリジナル) であるということ…「最初(はな)」。そして、社会で、家庭で、それぞれに「はな」を咲かせて欲しいという願いが込められている曲です。
華やか且つ凛としたⅠ章。優しく柔らかなⅡ章。ダンスブルでエネルギッシュなⅢ章。私たち自身が持つさまざまな姿や表情を、箏の音に乗せて精一杯表現します。

(2) 螺鈿 (作曲 沢井忠夫) 愛知県立豊田高等学校

「螺鈿」の「螺」には貝、「鈿」にはちりばめるといった意味があります。
螺鈿細工の趣、面白さを表現できるようにするため、特に押し放しの音型が連続するところや引き色の部分、すくい爪の弾き方を工夫しながら、呼吸を合わせて弾くように練習してきました。貝殻の光沢が光線の角度でいろいろな美しさを表す様子が伝わるように心を込めて弾きたいと思います。
コロナ禍の中、映像であっても発表できることへの感謝も感じながら演奏します。

(3) 絵空箏（作曲 沢井比河流）・・・・・・・・・・愛知県立一宮西高等学校

曲の題にもなっている「絵空事」には「現実にはありそうもない作りごと」という意味があります。

パートごとで違うリズムでありながら一体感のあるメロディと、目まぐるしく変わる曲調に注目してお聴きください。

(4) 虹色の風（作曲 大嶽和久）・・・・・・・・・・愛知県立半田高等学校

「虹色の風」は風が織り成す様々な表情を一箏・二箏・三箏・十七絃の4パートで表現した曲です。音の強弱や様々な奏法、リズムの変化などによる各パートの重なり合いで、虹がかかったような風の様々な色模様を思い起こさせます。私たちの音に（紡ぐ風に）、箏曲に出逢えた喜びと支えてくれた方々への感謝を込め、精一杯の演奏をします。

(5) 夢の中（作曲 吉崎克彦）・・・・・・・・・・光ヶ丘女子高等学校

この曲は、「現実」と「空想」の中で揺れ動きながら、青春を謳歌する10代なかばの若者の心を描いています。

前半は、多感な青年期にありがちな『夢の中』に耽る青少年の姿を感じさせます。

後半は、軽快なリズムとトレモロで、様々な困難にあっても堂々と「現実」に立ち向かっていく若人のたくましさ表現しています。

「ゆめ」と「うつつ」が交錯する世界に、ご招待いたします。

(6) 春の詩集（作曲 牧野由多可）・・・・・・・・・・安城学園高等学校

待ち望んでいた春のおとずれ……。小川の水がキラキラと輝き、すべてがよみがえり、花開く季節。かぐわしい風の香りと晴れわたった春の日に、夢のような乙女たちが通りすぎてゆく……。そうした希望の光に満ちた春をえがいた詩曲です。春の到来をよびかけるような一箏の独奏に始まり、二箏の分散和音の上に流れるようなメロディーが主題となって様々な変化を遂げ、自在に展開します。コロナが収束し、人々の心に明るい春が訪れることを願い心をこめて演奏します。

(7) 箏四重奏曲（作曲 長沢勝俊）・・・・・・・・・・菊華高等学校

箏三面と十七絃による四重奏曲で、曲は二つの楽章よりできており、第一楽章は「緩」、第二楽章は「急」という構成が取られています。調絃は古典に見られる五音音階ではなく、様々な和音の変化に対応できるようになっています。四つのパートが織りなすハーモニー、対話的な掛け合い、ダイナミックな変化が表現できるよう精一杯演奏させて頂きます。

(8) GRADATION～風の彩～ (作曲 吉崎克彦) 愛知県立豊田東高等学校

この曲の原曲は一絃琴のために作られた作品ですが、メロディにアンサンブルの「歓び」を加えたいと考え、箏や一七絃などを加えて合奏曲として構成しました。一箏・二箏にあるたくさんの押しが見せ所ですので、その部分をぜひ聴いてください。

(9) 残光の彼方へ (作曲 水川寿也) 愛知県立江南高等学校

この曲は遠い星空をイメージした曲で、テンポが速く軽快な第1楽章、ソロパートから徐々に盛り上がりを見せる第2楽章と、それぞれに聴きどころのある曲です。強弱や細かな音、そして曲全体のイメージを大切にしながら作り上げました。
箏、十七弦、三味線の3パートで奏でる宇宙の情景を、どうぞお楽しみください。

(10) 祭り太鼓 (作曲 筑紫歌都子) 修文女子高等学校

自然に体を動かしたくなるような太鼓の軽快なリズムで始まります。第1箏が箏の龍頭や胴裏を手で打って祭り太鼓のリズムを表現し、そのリズムに乗って第2箏が楽しく軽快なメロディを演奏します。曲は終始、祭りの心浮きたつ気分を表現し、華やかに盛り上がって終わります。今まで練習してきた成果を発揮できるよう精一杯演奏します。お聞きください。

(11) 風と光と空と (作曲 佐藤敏直) 愛知県立東海南高等学校

大地を自由に吹き渡る風。風の流れとともに姿を変え、一つとして同じものがない雲。そんな多彩な雲の合間から差し込む光。そしてどこまでも限りなく広がっていく大空。これら自然が見せる豊かな表情を、7パートに分かれた箏と十七弦で複雑に重なりながら表現します。それぞれのパートの掛け合いを大切に箏が大好きな思いと、聴いてくださる皆様への感謝の気持ちをこめて演奏させていただきます。

(12) さくらスケルツォ (作曲 江戸信吾) 愛知県立衣台高等学校

この曲は、「さくらさくら」をスケルツォの形式にアレンジした曲です。大きな一本の桜の木をイメージし、前半では満開の花びらが日差しを浴びながら、風にそよぎ舞っている、はかなく切ない様子を表現しています。後半では新緑の青葉が芽吹きだし、桜色と鮮やかな新緑が融合する様子や、生命力の発露を、箏の音色で力強く表現しています。どうぞお聞きください。

(13) カプリッチオ (作曲 牧野由多可) 名古屋市立菊里高等学校

カプリッチオには「気まぐれ」という意味があります。その名前の通り、この曲はリズムやテンポが頻繁に変わるとても楽しい曲です。3つの楽章から成り、各パートの掛け合いや独奏部分を経て、最後には全員が一体となって演奏するダイナミックな構成となっています。箏3パートと十七絃1パートで明るく軽快な「カプリッチオ」を表現します。変化する曲の表情を楽しみながらお聴きください。

(14) 雪月花によせて (作曲 吉崎克彦) 愛知県立鳴海高等学校

この曲は、深々と降り積もる雪、冴え渡る月、月夜に見る満開の夜桜のような自然的自然観とそこに託された想いが現代的感性で表現された曲です。1箏、2箏、17絃の掛け合いが聴かせ所ですので、その部分に注目して聴いてください。

(15) 竹生島 (作者不詳) 名古屋市立名東高等学校

琵琶湖に浮かぶ竹生島の弁才天の社詣でに來た延喜帝の臣下は、老いた漁師と若い女の釣舟に便乗します。臣下が社人に宝物を見せてもらっていると御殿が鳴動し、光輝く弁才天が現れます。弁才天が壮麗な姿で夜の舞樂を奏していると、月が湖上に澄み輝く頃、湖中より龍神が現れます。龍神は金銀珠玉を臣下に捧げ、祝福の姿を現します。その後天女は社殿に入り、龍神は湖水の波を蹴立てながら、龍宮のなかへ飛び入ります。舞と謡、息の合ったお囃子が一体となって織りなす、幻想的な世界を感じていただければ幸いです。

本日は、私たちの発表会 (県大会) にお越し下さいまして、ありがとうございました。

この発表会のために、私たち部員一同は日頃の練習の成果が発揮できるよう努力を重ねてまいりました。これからも伝統の音楽を楽しみながら、部活動に励んでゆきますので、変わらぬ御支援をお願いいたします。

